

Study Abroad

世界とつながって、こんなに面白い！

Reflection

個人留学支援

自ら企画する個人留学
他国留学生と多文化理解を深める



県企画プログラム

県が提供する7日間の体験
海外留学最初の一步



ウイングシェア・プログラム

留学機運醸成のため
留学体験をシェア



STEAM コース

【研修先】 アメリカ

【日 程】 令和7年11月12日～11月19日（8日間）

【参加者】 20人

【目 的】

- ・大学や研究機関を訪問し、世界トップレベルの学術専門家から特別講義を受け、プレゼンテーションやディスカッションを行う。
- ・歴史や文化芸術などにふれながら、各自のテーマに沿って市内でフィールドワークを行う。



○最先端の研究に触れる

最先端のSTEAM分野の研究設備に圧倒されるだけでなく、研究者たちの「科学で社会をより良くしよう」という強い情熱に感銘を受けました。専門領域の枠を超えて協力し合う柔軟な発想は、目指すべき将来像を明確にしてくれました。



○国際連合本部への訪問

普段はメディアでしか見ることのできない光景に触れ、国際連合が世界平和をけん引する中心的な存在であることを改めて実感しました。



○美術館での学習

メトロポリタン美術館、ボストン美術館、ハーバード自然史博物館を訪れ、世界屈指の豊富な美術コレクションを目に焼き付けました。名画名品の数々を一度に見られる機会は大変貴重でした。



○ホストファミリーとの交流

ホストファミリーの方々は私たちを温かく受け入れてくれました。食事を食べる際、一緒に「いただきます。」と言ってくれたり、日本から持っていったお土産も喜んで受け取ってくれました。自国の文化を受け入れてもらうことの喜びを初めて感じました。

【行 程】

月 日	活 動 内 容
11/12	羽田発／ニューヨーク着
11/13	・ニューヨーク国連本部見学 ・メトロポリタン美術館見学
11/14	・マサチューセッツ工科大学にて講義受講 ・マサチューセッツ工科大学にてキャンパスツアー ・マサチューセッツ工科大学内の研究施設見学
11/15	ホストファミリーと交流
11/16	・ボストン美術館見学 ・ハーバード大学にてキャンパスツアー
11/17	・クインシーマーケットにてショッピング ・ハーバード大学メディカルスクールにて講義受講
11/18	ボストン 発
11/19	成田着 解散

視野の広がった留学

参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は、留学に行く前、英語は好きだけど苦手なので、自分の英語が現地の人に伝わらなかったらどうしよう、間違えたら馬鹿にされないかという不安や緊張がとても大きかったです。しかし実際行ってみると、自分から積極的に自分の気持ちを伝えようとする姿勢が大事だと気がつきました。言葉がうまく出てこないときでも、身振り手振りや簡単な単語で伝えようすると、文法や発音が間違っているけど、相手は私の話を最後まで聞き、理解しようとしてくれました。その経験から、間違いは成長の一部であり、挑戦しなければ何も始まらないということを実感しました。また、世界最先端の研究を実際に見たり、話を聞かせてもらえたり、留学の魅力を教えて貰えたりして、自分も将来長期留学できるように勉強を一生懸命頑張りたいと思うようになりました。

帰国後の私は、以前よりも自分の意見を自分の言葉で表現できるようになりました。そして、授業中の発言や話し合いに積極的に参加するようになりました。また、異なる文化や価値観に触れたことで、多様な考え方を尊重し、相手の立場に立って物事を考える意識も高まりました。

今回の経験は、語学力の向上だけでなく、自分自身の殻を破る大きなきっかけとなり、今後もさまざまなことに前向きに挑戦していきたいと思うようになりました！

今の目標や今後の学校生活・進路について

留学から帰国して、私はこれまで以上に明確な目標を持って学校生活に向き合うようになりました。それは留学中にたくさんの素敵なお方から話を聞かせていただき、異なる価値観に触れたことで、自分の考えを持ち、それを行動に移すことの大切さを学んだからです。今後の学校生活では、受け身ではなく主体的に学ぶ姿勢を大切にしたいと思います。授業で疑問に思ったことはそのままにせず、自分で調べたり質問したりすることで理解を深めて、自分の選択肢を増やせるように努力していきたいです。また、留学で培ったコミュニケーション力を生かし、今までのように誰かに任せるのではなく、自分からクラスや学校行事にも積極的に関わっていききたいと思っています。今回の留学経験が単なる思い出にならないように、この学びを学校生活と将来の進路選択に生かし、自分自身をさらに成長させて、将来、人の役に立てるようになりたいです！



みんなでティーパーティ



世界の美術と私たち

長野から世界へ、そして未来へ

参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前は、海外のトップレベルの研究や社会は自分とは遠い世界の出来事のように感じており、英語でのコミュニケーションにおいても「正しく話さなければならぬ」という思いから、自分から発言することに消極的でした。しかし、現地で多様な価値観に触れ、自分の考えを必死に伝えようとする中で、「完璧であることよりも、一歩踏み出して挑戦する意志」の大切さを学びました。実際に未知の環境へ飛び込み、自分の力で対話を重ねた経験は、大きな手応えと「自分にもできる」という確かな自信に繋がりました。このプロジェクトに挑戦して本当に良かったと心から感じており、帰国後は、どんな困難に対しても物怖じせず、まずは挑戦してみようという前向きな姿勢に変わることができました。

今の目標や今後の学校生活・進路について

今回の経験を経て、将来は科学技術を通じて社会に貢献できる道に進みたいという目標が明確になりました。これまでは自分に自信が持てず、新しい一歩を踏み出すことに躊躇してしまうこともありましたが、研修を通して「今の自分ならなんでもできる」という強い自信と勇気を与えてくれました。自分の背中を押してくれたように感じ、帰国後は以前よりも行動力が増したことを自分自身でも強く実感しています。このプロジェクトで得た積極性をこれからの学校生活の基盤とし、どんな困難に対しても臆することなく向き合っていきます。進路についても、国内の大学に限定せず、将来的に海外の大学や研究機関との連携も視野に入れた広い視点で、自分の可能性を模索し続けたいと考えています。チャンスがあれば必ずまた海外での学びを経験したいという強い思いがあり、今後、新たに挑戦したいことや目標が見つかったときには、今回の研修で得た自信を糧に、迷わず全力で飛び込んでいきたいです。



ホストファミリーとの交流



ハーバードメディカルスクール

SDGs 探究コースⅠ

国際理解

【研修先】 韓国
【日 程】 令和7年10月20日～10月24日（5日間）
【参加者】 30人
【目 的】

- ・韓国での交流を通して国際理解を深めるとともに、現地高校生との英語での異文化交流や学習を通じて国際的な感覚を養い視野を広げる。
- ・特に2030年の社会の方向性を考えるSDGsについて理解を深める機会とするため、公的機関や企業等を訪問して現地で活躍する日本人にお話を伺う等、現地でのフィールドワークを通して、SDGsの要素について各自が設定したテーマを探究する。



○大学生との交流

彼らの圧倒的な積極性と韓国特有の「情（ジョン）」の深さが心に響きました。コミュニケーションは言葉だけではなく、相手を理解しようとする姿勢や伝えようと諦めない気持ちが大切だと感じました。



○文化体験

韓服試着体験や景福宮、韓国国立民俗博物館の見学を通して、韓服が世界中で親しまれている民族衣装であることを実感するとともに、韓国の文化や歴史についての理解を深めました。



○韓陶窯を訪問

伝統的な陶磁器の窯元を見学しました。



○高校生との交流

学校生活や趣味などについて話し、お互いの文化を深く知ることができました。留学が終わった後も、SNSを通して連絡を取り合い、交流を続けています。



○最大級の繁華街

韓国最大級の繁華街である明洞を訪れ、韓国の若者文化に深く触れることができました。

【行 程】

月 日	活 動 内 容
10/20	成田発／仁川着
10/21	・韓陶窯の見学 ・イヒョン高等学校にて授業見学及び現地生徒との交流
10/22	・景福宮にて韓服試着体験 ・広蔵市場や明洞にて買い物
10/23	・延世大学にて現地の大学生と交流（B&S プログラム） ・ソウル新活用プラザにてアップサイクルについて学習
10/24	仁川発／成田着 解散

行ってみないと得られないこと

参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は、進路選択をしていく中で観光に興味を持ったこと、物事を決断し行動するのに時間がかかる自分を変えたいと思ったことをきっかけにこのプロジェクトに参加しました。このプロジェクトに参加しようと決断したこと自体、自分にとって大きな一歩でしたが、より積極的にプロジェクトに参加するためにリーダーに立候補する、自分たちだけで空港に行く、初めての海外に行く、現地の高校生に代表挨拶をするといったようなたくさんの経験を通して、思い切って行動したり、自分の意見をしっかり持ったりできることが増えました。その多くの経験の中でも、現地の高校生の積極的に日本語を話してくれようとする姿勢は、もっと積極的に自分から関わっていかなくちゃと思うきっかけになりました。

今の目標や今後の進路について

今回の韓国訪問を通じて、私は日本語以外の言語で人と話すことの面白さを実感しました。そして帰国後は、英語と韓国語の学習に力を入れています。グローバル化が進む今の時代、英語は必要不可欠であるため、英語で基本的なコミュニケーションを取れるようになり、韓国語で韓国語話者と対等に話せるようになることを目標にこれからも韓国語を勉強し、自分の可能性を広げていきたいです。今回韓国に訪問し、異文化理解を深められた経験を活かし、大学では異文化をさらに広く深く理解し、自分の視野を広げていきたいです。



イヒョン高校の生徒と共に



京福宮で韓服体験

私を成長させてくれた韓国留学

参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

これまで私は人見知りだったため、自分から人に話しかけることにためらいがありました。しかし、バスや食事の席で隣になった子に勇気を出して話しかけてみると、会話の楽しさを感じるようになり、次第に自分から積極的に話せるようになりました。その結果、韓国の高校生とも深く交流することができ、コミュニケーションの楽しさとともに、自分自身の成長や変化を実感する貴重な時間となりました。

また、韓国に行く前から英語や韓国語の勉強は好きでしたが、海外で実際に言葉を使ってみたことで、外国語を学ぶことの重要性を改めて実感しました。相手の国の言葉である韓国語を使ってコミュニケーションを取ることで、単に会話ができるだけでなく、より相手と親しくなれることに気づきました。この経験から、外国語で自分の思いを伝えることの大切さを実感し、韓国語だけでなく、英語の授業に対してもこれまで以上に積極的に取り組むようになりました。

今の目標や今後の進路について

初めて海外に行ったことで、これまで日本にいただけでは感じることでできなかった世界を知り、「こんな考え方や文化もあるのだ」と強く実感しました。現地での交流を通して、自分が無意識のうちに持っていた固定観念に気づき、それらにとらわれず相手を理解しようとする姿勢の大切さを学びました。この経験から、異なる文化や価値観を尊重し、異文化理解に努めていきたいと考えようになりました。

また、自分の英語や韓国語が相手に伝わったときの嬉しさを実感したことで、将来は外国語を生かして人と関わる分野に進みたいと考えるようになりました。失敗を恐れて外国語を使うことを諦めるのではなく、積極的にコミュニケーションを取る力を伸ばし、進学後も語学学習に力を入れていきたいです。



イヒョン高校との交流



韓服で景福宮へ

SDGs 探究コースⅡ 国際協力

【研修先】 ベトナム・カンボジア
【日 程】 令和8年2月2日～2月8日（7日間）
【参加者】 25 人
【目 的】

- ・現地高校生とともに SDGs の要素について共通するテーマを立て、企業訪問やまとめ、発表など探究活動を行う。
- ・カンボジアまたはベトナムの歴史や文化に触れ、戦争や内戦が教育に与えた影響について考える。



○ PSE 生徒との交流

文化交流をしたり、未来の学校のありかたについてディスカッションをしました。PSE の生徒たちは各々の状況と向き合いながら、「自分たちで未来を創る」「自分たちで楽しむ」という意志とエネルギーを強く持っていました。

※「PSE スクール」とは、カンボジアの NGO である「PSE」が運営する、貧困層の子供や若者へ職業訓練や専門教育を行う学校のこと



○ 高校生との交流

ベトナムのキムリエン高校で出会った生徒たちは、学ぶことにとても前向きで、その姿勢から多くの刺激を受けました。交流した生徒が教えてくれた「Carpe diem（その日を大切に生きる）」という言葉をいつまでも大切にしていきたいです。



○ 歴史と内戦について学習

歴史を乗り越えながら努力する人々の姿に心を打たれました。困難な歴史を乗り越えてきたからこそ生まれる、国民としての強い結びつきやアイデンティティの大切さを学ぶことができました。

【行 程】

月 日	活 動 内 容
2/2	・成田発／ハノイ着 ・JICA ベトナム事務所にて現地駐在員による講義
2/3	・ベトナム軍地歴史博物館見学 ・KimLien 高校を訪問し、現地生徒との交流及びディスカッション
2/4	・教育支援 NGO 訪問 ・ハノイ発／シェムリアップ着
2/5	・仏教研究所での講義、トゥールスレン虐殺博物館訪問 ・NOMPOPOK 事業についての講義及びワークショップ
2/6	・カンボジア国立博物館、シルバーパゴダ訪問 ・カンボジア地雷対策センターでの講義
2/7	・PSE School にて、現地学生によるキャンパスツアー及びディスカッション ・シェムリアップ発（ホーチミン経由）
2/8	成田着 解散

自分を見つめ直した旅

参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私はこのプログラムに参加する前、「今まで見たことのないものを見て、将来の夢につながるヒントを得る」という目標をたてていました。この目標を掲げ、ベトナムとカンボジアに行ける日をとても楽しみにしていました。実際に現地を訪れてみると、ベトナムの交通量の多さやカンボジアの内戦による影響を受けた町など、日本では見ることでできない景色を目の当たりにし、多くの衝撃を受けました。そしてこの経験を通して国際的な問題や世界の出来事に興味を持つようになりました。普段何気なく過ごしている日常の裏側では、今も世界各地で情勢が変化しています。そうした国際情勢を理解したことで日々の生活のありがたみを感じることができました。この経験こそが今の私にできる学びだったと感じました。

今の目標や今後の進路について

私はこのプロジェクトを通して国際関係の仕事に興味をもつようになりました。世界で活躍している方々の話を聞き、特に印象に残ったのは、どんな仕事でも必ずしも自分に直接恩恵が返ってくるわけではないのに、日本を飛び出してまで活躍する方がいるということでした。その姿にとっても感動しました。

私はこれまで、なんとなく教師になりたいと思っていました。しかしそれは、今まで生きてきた中で知った仕事の中で一番興味があったというだけだったのだと感じました。世界に目を向けてみると、まだまだ私の知らない多くの職業があり、目標も大きく広がるのだと実感しました。

そして、「将来こうなりたい」という思いはいつ抱いてもいいものだし、その夢を見つけるために海外に飛び出してみることも大切だと思いました。今後は無理に将来の夢を決めるのではなく、様々な経験を積んで‘私’を見つけていきたいです。



PSE の生徒との交流



疑問に思ったことを質問する姿

アジア社会における教育と共生

参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

以前から言語学習が好きだった私は渡航前までは「語学力を高めたい」「言葉のスペシャリストになりたい」といった思いを持っていた。しかし、今回の研修を通してその思いは新たな形へと変化した。現地では自分の持っている知識や語彙が学校交流や講演での質問など様々な場面のコミュニケーションを支えるツールとして機能していることを強く実感した。多種多様な人々の願いや立場に耳を傾けて共に時を過ごすというのはある種の感動を覚えた。この経験から、私は得た知識を使って自分が何をすることが最も大切なのだと気づいた。このような思いが生まれ、私の夢はただ単純に語学を突き詰めるのではなく、言語を道具として活かし、社会課題に立ち向かえるような人間になりたいというものに進化した。

今の目標や今後の進路について

今回の研修に参加して、私は、日本と世界を、特にアジアを繋ぐ架け橋になりたいと考えた。日本とは異なる多民族国家を訪れたことで、多様な人々の声に耳を傾けることの大切さを知った。私の価値観である「全ての人がよりよくあるように尽くす」という願いを叶えるためにも、大学では多文化共生の視点からアジア社会の教育や労働について学びを深めたいと考えている。教育や労働を支えることは、その土地に住む人々がより長く幸せに生きていくための重要な要素だと考えるからだ。そして、言語を人と人を結ぶ手段として活かしながら、互いの違いを理解し合える社会の実現に貢献したい。そのためにも、今の自分の語学力に満足することなく引き続き中国語や英語の技術の向上に努め、英検一級の取得を目標に努力したい。



PSE 生とランチ



愛嬌 with ベトナム高校生

グローバル インターンシップ コース

【研修先】 台湾
【日 程】 令和8年3月8日～3月14日（7日間）
【参加者】 25 人
【目 的】

- ・ 県教育委員会と連携協定を締結している台湾・高雄市等へ県内の高等学校等の生徒を派遣し、日本を拠点にしながら現地に展開する企業等でのインターンシップを通して国際感覚を養い、グローバル時代の経済を体感するとともに、継続的な交流を通して国際理解を深める。
- ・ 現地高校生との英語での異文化交流や学習を通じて国際的な視野を広げ、グローバルな社会で活躍できる人材を育成する。



○現地企業での インターンシップ

農業、工業、商業の各コースに分かれてインターンシップに取り組みました。物販体験や農作物の収穫体験などをしました。



○ホストファミリー との交流

交流した学生のお宅でホームステイをし、台湾の文化について楽しみました。



○高校生との交流

各職業学校を訪れ、長野県についてプレゼンテーションをしました。



【行 程】

月 日	活 動 内 容
3/8	成田発／高雄着
3/9	・ 高雄市政府教育局、日本台湾交流協会高雄事務所を訪問 ・ 高雄市内の高校を訪問し現地生徒と交流 ・ ホームステイ泊
3/10	・ プロダクト社を訪問（企業視察）、高雄市内見学 ・ 裕毛屋公益店（大型スーパーマーケット）視察
3/11	コース別インターンシップ ・ 農業：パイナップル、コメ等の農家見学及び収穫体験 ・ 商業：裕毛屋公益店販売体験 ・ 工業：最先端技術・商品開発工場見学
3/12	台北市内の高級職業学校（専門学科の高校）で生徒との交流 ・ 農業：高級工農職業学校 ・ 商業：高級商業職業学校 ・ 工業：高級工業職業学校 現地生徒と班別市内散策
3/13	・ 忠烈祠、国立故宫博物院の見学 ・ 龍山寺を参拝、九份の散策
3/14	台北発／成田着 解散

台湾で気づいた「当たり前」と新たな挑戦

参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

これまで、自分にできそうなことだけに挑戦するという考え方をしていました。失敗することが怖く、自分で自分にブレーキをかけていたからです。特に英語については、海外の人に伝わるはずがない、きちんと勉強してきた人には敵わないと決めつけていました。しかし、台湾に行き、実際に現地の人と会話をする中で、その考えは大きく変わりました。完璧な英語でなくても、伝えようとする気持ちがあれば相手に伝わることを実感しました。また、コミュニケーションは言葉だけでなく、表情や身振り手振りも重要であることに気づきました。

この経験を通して、自分の中の「できる・できない」という基準に縛られていたことに気づきました。そして、「できそうだからやる」のではなく、「できなくてもまず挑戦してみる」という考え方へと変わりました。今後は、この経験を活かし、失敗を恐れずにさまざまなことに積極的に挑戦していきたいです。

今の目標や今後の進路について

今回の台湾での経験を通して、現在の目標は、自分から積極的に挑戦し、視野を広げていくことです。これまで失敗を恐れ、自分にできそうなことだけを選びがちでしたが、実際に行動することで得られる学びの大きさを実感しました。また、言葉が十分でなくても、伝えようとする気持ちや行動によって人とつながることができると学び、コミュニケーションに対する考え方も変化しました。さらに、インターンシップを通して、環境に配慮した農業のあり方や資源を無駄にしない工夫について学び、自分の関心の幅が広がりました。

これらの経験から、今後は農業や環境に関わる分野について、さらに学びを深めていきたいと感じるようになりました。進路としては、自分の興味・関心を大切にしながら、実践的に学ぶことができる環境に進みたいと考えています。そして将来は、今回の経験で得た学びを生かし、多くの人と関わりながら社会に貢献できる人物になることを目標としています。今後も失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦し続けていきたいです。



台北市開南高級中等学校にて



レモン畑にて

言語や国籍を越えて広がった視野

参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

正直、海外は怖いところだと思っていました。特に、日本との言語や文化の違いが大きな壁になると考えていたため、実際に行ってみるまで少し怯えていた部分がありました。ですが、台湾へ行ってみるとお店の店員さんを始め、同世代の学生やそのご家族もとても優しく仲良くしてくださいました。言語の壁に関しては、お互いに言語が伝わりにくいなりに工夫をして距離を詰めることができたと感じています。壁ではなく、お互いのチャームポイントであり個性である、と広い世界に視野を当てるきっかけとなりました。文化的な面では、家の作りや施設の使い方はじめ、食生活や学校の規模にもとても衝撃を受けました。日本での当たり前が当たり前ではないことを改めて実感する貴重な機会でした。台湾の生活もとても楽しいものでしたが、帰国後に日本の生活に戻ると、より自国の凄さを実感できた部分もあります。普段悠々と生きていると気づけない幸せに気づけて良かったと心から感じました。自分の生活や人間関係の基準が世界規模に変化したことが一番の大きな成果であったと思います。

今の目標や今後の進路について

これから生きていく中で、自分とは違った国籍の人、職種の人、年齢の人など、多くの人との出会いがあると思います。その中で、私が今回の研修で学んだことの一つである、「違うように見えても実は同じ世界で生まれた人間である」という目線を常に持って生きていきたいと思っています。文化や価値観の違いに戸惑うことがあっても、その違いを否定するのではなく、理解しようとする姿勢を大切にしていきたいです。進路については医療系の道へ進むことを選択肢として考えていますが、出会いと別れに多く立ち会う環境だからこそ、この価値観は自分の支えになると感じています。また、一人ひとりに寄り添い、その人の背景や思いを尊重できるような存在になりたいです。



台湾の学生との交流



台北市立開南高級中等学校でのプレゼン



個人留学支援プログラム

大久保 杏珠さん (Anju Ookubo)

諏訪清陵高等学校 2年 (留学時)

カナダで育む実践的英語力と自己表現力

私が今回参加した留学プロジェクトでは、日本のみならず多くの国からの参加者がいた。

アジアからヨーロッパ・アフリカまで、様々な国籍の参加者と交流した。友達と会話をする中で、相手の母国語について触れ、また、英語の授業では母国の伝統料理について紹介する場面があり、それでも他国の食文化について知ることができた。私は、長野県の魅力を伝えるために、友達との会話の中で松本市の特産品であるスイカの話をしたり、授業内で地元をPRする際に、スキーリゾートが有名であるということと話したりした。友達や先生は「素敵だね！今度日本に訪れたときに行ってみたいな！」と言ってくれて、長野県の魅力を知ってもらうことができとても嬉しかった。



留学初日は、緊張と不安であり英語を話せず、聞き取ることも難しい状況だった。しかし、優しく話しかけてくれたチームのメンバーに救われ、翌日からは英語を使うことに自信を持てるようになり、積極的にコミュニケーションを取ることができるようになった。

午前中のアクティビティでは、UBC (大学) の敷地内にある博物館に行った。そこでは、カナダで有名なトーテムポールが数多く展示されており、昔から継承されている伝統に触れることができた。また、週3回ある遠足では、カナダで有名な観光地に行った。ローズガーデンやアクアバス、シャノンの滝からはカナダの自然を肌で感じることもできた。アクアバスでは、近くをスイスイと泳ぐラッコを見ることができた。観光地に行かなくても、私の寮から毎日リスが見え、日本ではなかなか見られないような光景に驚いた。カナダに行く前は、あまり詳しく現地について知らなかったが、約1ヶ月間の生活を通して、カナダには大自然があり、象徴的な伝統があるということを知った。

留学前は、よく周囲の目を気にしてしまい、あまり積極的に行動ができなかったが、留学後ではポジティブな考え方と積極的な行動が以前よりもできるようになっていた。その理由として考えられるのが、生活環境だと思う。私は約1ヶ月の間、他国の参加者とともに過ごし、彼らの前向きな思考、明るさ、そして何事にも恥じずに全力で取り組む姿に圧倒された。このような環境で過ごしたことが、私の心情が変化したきっかけとなった。日本でも変わらずに、今回得た新しい視点を大切に物事に取り組んでいきたい。

将来の進路としては、国際関係の仕事に就きたいと考えている。そのためには英語のリーディング・ライティングも必要となってくるが、それ以上に人との関わりでスピーキング・リスニングがより大切になってくると思う。そのため、日頃から耳を慣らし、声に出して読む習慣をつけていきたい。今回の留学は、多くの方々から寄付をいただき実現できた。これは本当にありがたいことだと感じている。支援していただいた方々への感謝を忘れずに貢献できるよう様々な活動をしていきたい。



佐藤 わかばさん (Wakaba Satou)

長野高等学校2年 (留学時)

南アフリカで学ぶ国際協力

私は将来、発展途上国など生活が困難な状況にある人々を助けるために働きたいと思っています。今回南アフリカへ短期留学した理由は英語を勉強するのはもちろん、現在の南アフリカの経済的問題や生活的問題などから、発展途上国の人々が平和に暮らせるために私に何ができるのかを学ぶ機会にしたいと思ったからです。自分の目で見て肌で感じ、今後の進路や将来の夢の一環としてこのプロジェクトに参加しました。

アフリカと聞いて少し危険な印象があると思いますが、実際にスリやトラブルに巻き込まれるようなことはありませんでした。ですが、道中ではホームレスの人に声をかけられることが多々あり、そこは注意しなければならないと思いました。街中や治安の方も行く前は不安でしたが、そこまで心配する必要はなく、他国からの学生さんと観光を楽しんだり一人でお出かけしたりすることもできました。

今回の留学で私は、実際にホームレスで生活が困難な人々やスラム街の状況などをこの目で見ました。また、ホストマザーからも南アフリカのホームレスのことや教育のことなど、改善すべき課題がまだたくさんあることを聞きました。日本ではごく普通の当たり前のことが南アフリカだとそれがあたり前ではなくなってしまうことを考えたとき、悲しく思ったのと同時に、彼らが安心して平和な生活を送れるように私も現地の人も一緒に努めなければならないとより一層思うようになりました。

実際に南アフリカに滞在して思ったことは、充実した教育期間を設け、全ての子どもたちに教育を受ける権利を与える必要があるということです。「教育とは、世界を変えるために用いることができる、最も強力な武器です。」これは南アフリカの大統領、ネルソンマンデラが述べた言葉です。この言葉の通り、全ての子どもたちが教育を受ければ自国の今後の経済的問題や生活的問題を解決する手掛かりを探ことができ、経済発展した国で人々が平和に暮らすことができると思います。私は教育の面から世界を平和にすることができるのではないかと思います。

今回の留学は進路を実現するための大きい一歩となりました。日本人が誰もいない環境の中での生活は少し難しい面もありましたが、貴重で良い刺激をたくさんもらいました。英語を喋る難しさも実感し、流暢に喋れるようになるためには更なる努力と経験を積み重ねる必要があると思いました。

この留学に携わってくださった全ての方々に感謝します。私が一人で南アフリカに行くことを許してくれた家族には本当に感謝です。応援してくださった全ての方々に応えられるよう、これからも励んでいきたいです。



「海外での学び」推進事業 信州つばさプロジェクト (高校生海外留学支援制度)

信州つばさプロジェクトは長野県の高中生が、信州に根差した確かなアイデンティティと、世界に通じる国際的視野を持ち、将来世界の様々な分野で活躍できる人材として成長できるよう、社会全体で留学への機運を盛り上げる仕組みをつくり、県・民協働で高校生の留学を支援することを目標とした事業です。

1 事業内容

(1) 県企画プログラム(短期留学)の提供

- ・県で短期のプログラムを企画し、海外渡航へのきっかけ(「海外留学はじめての一步」)をつくります。
- ・旅行費用の1/2を補助

○令和8年度のプログラム(予定)

	プログラム名	留学先	日数	内容	募集人数
1	SDG s 探究コースⅠ (国際理解)	韓国	5日間	高校訪問、文化交流、 研究機関訪問等	40人
2	SDG s 探究コースⅡ (国際協力)	マレーシア (クチン等)	7日間	ボランティア 専門機関訪問等	26人
3	グローバルインターンシップコース	台湾高雄市	7日間	企業訪問 専門機関訪問等	28人
4	STEAM コース	アメリカ (ボストン等)	8日間	大学、企業訪問、 学生交流等	28人

(2) 個人留学への支援

- ・留学を希望し、明確な目的を持つ生徒に対し、自身が企画した留学に係る費用の一部を補助します。

○補助制度の概要

留学期間	短期：7日以上106日(約3か月)以下 長期：107日以上365日以下
対象経費	渡航費、空港使用料、保険料、現地での授業料、現地プログラム参加費 等
補助金額	・留学期間及び留学先に応じて定めた基準額以内 ※基準額は、国が行う「トビタテ！留学 JAPAN」の設定額の1/3程度 ※奨学給付金受給世帯の生徒は基準額を上乗せ(「トビタテ！留学 JAPAN」の1/2程度)

(3) ウイングシェア・プログラム

留学経験のある高校生等によるプロジェクトにより、留学に係る情報交換の場を設定し、留学に向けた機運醸成を図っています。

2 高校生留学者数の記録

		R4	R5	R6	R7	R8(予定)
つばさプロジェクトによる 留学者数	県企画プログラム	30	80	91	100	122
	個人留学支援	8	10	12	15	10
	本予算以外(臨時コース)		—		—	—
合計		38	90	103	115	132

3 寄付について

個人留学への支援は、団体や個人の皆様からお寄せいただいたご寄付を活用して実施しています。詳しくは右の二次元コードからご確認ください。

